

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201260		
法人名	社会福祉法人 清志会		
事業所名	紫明寮グループホーム		
所在地	熊本県天草市五和町二江567番地1		
自己評価作成日	平成23年3月22日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4373201260&amp;SCD=320&amp;PCD=">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4373201260&amp;SCD=320&amp;PCD=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成24年4月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・恵まれた環境(目の前に海・隣接する畑・車通りの少ない散歩道)の中で、ご利用者に合わせた活動ができる様、お手伝いしております。(イルカの泳ぐ海を眺める・野菜の収穫を楽しむ・風車道の散歩)  
 ・広めの居室にはご家庭にいる時のように仏壇があり、炊き立て御飯・水をお供えし、手を合わせ、心の安らぎに結びついておられます。  
 ・毎日系列施設の看護師にバイタル報告し、専門職による体調の管理が出来ております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体特養の施設長を兼務する代表者は、地域の高齢者福祉を推進する存在であり、ホーム運営にもこだわりが随所に見られた。天草の海を一望できる絶景地にホームが建設され、広々としたリビングには上質の家具がレイアウトされ、高級感が漂っている。法人関連の医療機関や特養・デイセンター等からの支援体制が強固に生まれ、日々の健康管理は特養の看護師、急変時は医療機関と、24時間の安心が確保されている。季節行事は特養の支援の下、豪華な食事や、地域住民との交流の機会も設けられている。職員は、入居者と同じ文化を共有できるように地元から採用し、特養で経験を積んだ後にホーム勤務としている。職員育成にも熱心に取り組み、内・外部研修の機会も多い。思いやりや気配りの指導も折に触れ行われ、サービスの質の向上が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「静かなホームよりも明るく エネルギッシュなホームを創ろう」の理念のもと支援を行っています。利用者ごとの特性に合わせた支援計画になる様、職員間で話し合いプランに反映させています。調理・グループワーク等具体的なプランにする事により職員間のケアの統一も図っています。	入居者・家族だけでなく、地域も含めて「親切に、丁寧に、優しく、温かい支援を積極的に」という母体特養と同じ理念を掲げ、法人全体で協力し合い、実践に取り組んでいる。入居者に接する代表者の姿を模範として、職員は介護のあり方を学び、自己研鑽に努めている。母体特養で経験を積んだ職員のみで構成され、代表者の指導のもと、結束したケアが見られた。	母体特養の理念を踏まえて、ホームの役割を示す独自の理念が作られると更に良いと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の二つの保育園の運動会に参加。見学者も含め、三世代との交流が図れています。又、近くへの散歩も積極的に実施、近隣との交流に結び付けています。	地元に住居する職員が多く、普段の職員の生活そのものが地域交流に繋がっている。御大師様のお参りやどんどやなど、地域の情報は職員から得られており、積極的に参加し、住民からも仲間として迎え入れられている。母体特養が長年培ってきた地域との繋がりがあり、ホームもその中で、保育園児や住民との交流も図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に運営推進会議を開催。地域の代表の方へ出席いただき、事業所の運営状況を地域・老人会へ発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者情報・活動報告を行っています。会議では地域の代表の方から利用者側に立った意見(日々の生活の希望・生活の理想等)を聞く事ができ、サービスの向上に活かしています。	地域包括支援センターや老人会、婦人会、民生委員、入居者を参加メンバーとし、3ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。地域包括支援センターからは、今後の高齢者支援の動向等に係る情報が提供され、ホームの活動内容を再確認する機会となっている。自立支援の強化を求める提案には、散歩など歩行の機会を増やす取り組みが見られ、会議での意見がサービス向上に反映されていることが確認できた。	現在、全入居者の家族が遠方に在住し、会議への家族参加は得られていない状況にある。出来る限り家族が参加できるように、日時調整等工夫されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターより参加いただき事業所運営に関する取り組みを伝えています。議事録は市の担当課へ送付、意見交換の状況を伝えています。又、系列施設は天草市のヘルパー自習施設としての役割を担っています。	母体特養の事務部が窓口になり、役場職員との連携が図られている。ホームとしては、地域密着型事業所関連の集団研修に参加し、制度の改正等の情報を得、相談を行っている。地域包括支援センターとは、地域の高齢者の情報を共有し、互いに協力し合う関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	系列施設に身体拘束廃止委員会があり、年間を通じた研修会、月1回の職員総会時現状の報告がされています。	毎月、法人全体で行われる職員総会で、身体拘束委員会から拘束に関する情報が提供され、拘束の内容理解や廃止に取り組む意識付けが行われている。また、年に数回、勉強会も実施され、施錠や抑制帯を使用せず、見守りを密に行い、転倒等の事故防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修、毎週月曜日の職員会時に虐待等の防止について話し合いを持っています。又、自己評価により職員個々の理解度・実践状況を知る事ができ、次のステップにつなげています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の概要が理解出来るようパンフレットを置いています。又、施設内研修により職員の理解も深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、契約書や重要事項説明書の詳細について個々に十分説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族へ毎月のおたよりにて活動状況等、写真もお付けしお知らせしています。又、体調の変化等は電話でお知らせするようにしています。面会時には近況報告を詳しくしています。利用者の意見・ご家族の意見は職員間で共有できる様、記録に残し都度話し合いの機会を持っています。	月に1度は家族の訪問があり、その機会に入居者の様子を伝え、家族の要望を聴き取るように努めている。遠方に住む家族の一番の心配事は、毎日の暮らしや健康状態であると考え、毎月のお便りに暮らしの様子を載せ、状態の変化が見られたときは速やかに電話で知らせるなど、家族の不安軽減に努力している。	年に一回でも家族が集う場を設けるなど、家族同士の情報交換の機会があると、意見が出やすいように思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会・主任会・毎週月曜日の職員会や毎日のミーティング。又必要に応じ随時意見や提案を聞いており、より良いグループホームを目指しています。	毎月の職員総会や毎週のホーム職員会、毎日のミーティングなど、職員が話し合う機会は多く、また、仲の良い人間関係の中で、意見を言い出しやすい雰囲気を作られている。高齢化に伴い、トイレを汚す人も増えてきたが、全員で話し合い、パッドやおむつの使用を勧める前に、トイレを頻回に掃除すれば済むことと捉え、全員でトイレ掃除に取り組むなど、自立を促すケアを目指して、建設的な提案が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の把握を行い、適正な労働時間で就業してもらっています。各種研修会への参加・資格取得の積極的な呼びかけでやりがいやスキルアップを図っています。又、職員の気づき等、積極的に取り入れる事により施設環境整備・修繕に結びついています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列施設の寮内研修に参加、実際の介護現場での介護技術の取得ができています。又、法人内外の研修に積極的に参加しています。更に、看護師・理学療法士等への進学の道も推進し優秀な人材確保に結びついています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週1回の職員会では系列施設の職員が参加した研修報告があり、一緒に勉強する事が出来ています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面会時よりご本人とのコミュニケーションを図ることを大切にしています。これまでの生活を尊重し、ご本人様との会話の中から望まれる生活について共に考えるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御本人・御家族と共に見学や、体験の機会を設けております。相談も受け、家族との関係作りにも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に御本人・御家族と面談し、何が必要か良く検討し、緊急性が高いケースに関しては母体施設と連携し、他のサービスの検討等連絡・紹介をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の生活暦等、職員間で共有する事により生活のあらゆる場面において助け合い・補い合って生活しています。梅干し作り・盆だご作り等利用者様より教えて頂くことも多い生活です。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会・電話等の協力にてご本人を支える一員である事をお伝えしています。職員がその橋渡しを担い、共に本人様を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状・暑中見舞いを出す事によりなかなか会えない方との交流を図っています。手書きの暖かいハガキを出す事により、電話が掛かってきたりと嬉しい交流に結びついています。	空き家となっている自宅を心配する入居者が多く、時々自宅に伴ったり、自宅の花の球根をホームに移植するなどして、不安解消を図っている。隣接の温泉センター帰りにホームに立ち寄る人や、ワカメを手土産に訪れる人など、友人・知人の訪問も多い。本人直筆の年賀状や暑中見舞いを勧め、ハガキが届くとすぐに電話をかけてくる家族もいるなど、双方にとって大きな楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スムーズな交流が図れる様、毎日の生活のどの場面でも職員が間に入り橋渡しすることによりより良い関係が築けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様が重度になられますと、系列施設である特老にお移りいただき、相互交流を継続しています。退所され、自宅介護になられた方は、気軽に面会に来られ、交流が続いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活・交流の中で、ご本人様の思いを汲み取る努力をしています。思いの実現に向けて、職員間での検討会を都度実施。記録に残し支援の統一化を図っています。	入所時にこれまでの生活歴を詳しく聴き取り、どのような暮らしを望んでいるのかを把握し、ホームでの暮らしに活用している。看護師だった人は、他の入居者の世話をすることが役割。学校の先生だった人は、脳トレーニングの計算や書き取りが楽しみ事であったりと、それぞれの興味、関心に沿った支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様・ご家族から生活歴・ライフスタイル・趣味・望まれる生活等詳しく聞き取りしています。入居後は、本人様との日々のコミュニケーションの中での気づき等、記録し職員間で情報の共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに個人ごとの1日の過ごし方表記しており、半年ごとのプラン変更時にはより充実した生活を目指し、担当者会議を開催しています。又、状況に応じ一日の過ごし方も柔軟に対応できる体制づくりにも努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者のケアチェック・他職員の気づき等を反映し介護計画を作成しています。又、面会時煮は意向をお聞きし、プランに反映、職員にも申し送りの徹底しています。	毎日の様子を詳細に記録し、利用者毎の担当職員が1ヶ月の内容を集約して、ケアの見直しを行っている。介護計画作成者は毎月の見直しシートやケアカンファレンスの内容を活用して、計画を作成している。家族には訪問時や電話で要望を聴き取り、手紙で介護計画を郵送し、同意を得ている。モニタリングから計画作成まで、家族・職員の意見を反映させる仕組みが作られ、機能しており、高く評価できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきある度に担当者会議を開催しています。気づき・変更事項等は記録に残し、全職員の回覧にてケアの統一を図っています。又個別のケース記録に記録、実践状況も確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所されてから何が心配か日々の会話の中から発見、居室に仏様持込の方には、毎朝お茶・炊きたてのお供えしています。自宅の花壇の心配されていたので、駐車場に花壇を手作り、自宅から花を移植。水かけ、草引きと楽しまれています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の老人会の慰問が年1回あり、交流を楽しめます。春に新ワカメ・秋に芋だごと差し入れもあり、作り方お聞きし、グループホームで作り、面会時に感想をと、交流を深めています。又、他の施設の作品展・展示会と参加し、地域社会との交流も深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による診察を受け、病気の早期発見につとめています。かかりつけ医の指示により、眼科・泌尿器科と定期通院も実施しています。	入居者全員が協力医院をかかりつけ医にしており、必要に応じて専門病院の受診を行っている。通院には職員が付き添い、電話や手紙で受診内容を家族に報告している。時には、母体特養の看護師が受診に付き添うこともあり、また、ホームでの点滴を行ったり、夜間の急変時の対応等、母体特養の支援は大きい。毎日、入居者全員のバイタルや健康状態を母体特養の看護師に報告しており、普段の利用者の健康状態が把握され、迅速で的確な対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックをし、毎日系列施設へ報告しています。状態の変化もすぐ報告、かかりつけ医から指示が受けれる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人に関する詳しい情報提供を行い、安心して入院できるよう支援しています。ご家族にも連絡し、回復状況等の情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人が重度化された場合は、系列施設である特老へお移り頂いて、安心した介護が受けれるということを入所時に御本人・ご家族にお話しています。	契約時に、状態が重度化した場合には母体特養への転所となることを家族に説明し、同意を得たうえでホーム入所となっている。ホームで看取ることはなく、医療行為が必要な場合も母体特養のショートステイ利用など、緊急時の受け入れ体制が作られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に系列施設で開催の緊急時対応・事故発生防止の為に指標等の勉強会に参加し、適切な初期対応ができるようにしています。又、系列施設の看護職員との連携体制も整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網(グループホーム単独・系列施設を含めた全員)を整備し緊急時の連絡訓練をしています。又、火災(夜間想定含む)等の避難対処訓練も実施しています。年2回の防災点検、消防査察、年2回の避難訓練、消防訓練実施	年2回、入居者も参加して避難訓練と消火訓練を実施。母体特養の訓練と同日にして、消防署の指導を受けている。ホームの建物周囲は空き地が広く、出入り口も多い為、避難は比較的容易な環境にある。法人の職員は近隣在住が多く、近隣職員の緊急時連絡網を作り、非常時に備えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	はくパンツ・尿取りパット使用されている方の交換は、歩行訓練等連れ出し、さりげなく居室に誘導し、他の利用者に気づかれないようにしています。又パット類も業者の協力により色々な種類を試し、使い心地・尿臭等にて個々に種類を変えています。	入居者の人格を尊重し、大切に支援する代表者の姿が、職員の意識付けに繋がっており、入居者の心に配慮したケアが行われている。家具や食器、排泄用品に至るまで、良質な物、一人ひとりに適した物をと吟味するこだわりがある。敬語ではないが、馴染み深い方言で優しい声掛けが聞かれ、穏やかな対応が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の掃除・三度の食事作り・洗濯・散歩など一日の生活のほとんどを共に出来る事を目標にしています。しかしその場面、場面において常にご本人の意思を確認し、その気持ちに沿って参加されるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペース・排泄間隔等、何事にも個性がある、と言う事を職員間で確認しあっています。生活リズム・ペースを考慮し、ご本人の気持ちに沿って行動できる様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪のカットはグループホーム内で同じ方をお願いしてあります。職員が付き添い、個人ごとに襟足が短く・ピンで留めたいので前を少し長めにと希望を伝えています。毎日の服は自分で用意できない方にも自分で選ばれるよう数種類をお出しするようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮剥き・味つけなど可能な限りご利用者・職員共同で作業しています。新鮮市場への買出しも共にし、季節の食材で希望の料理法で提供しています。献立の中にも、職員がご利用者とのコミュニケーションの中から見つけた「〇〇さんの肉じゃが」など好物を入れるようにしています。	会話の中で聴き取った「夫と一緒に食べた思い出の皿うどん」等、入居者の声をメニューに取り入れるなど、一人ひとりの食に対する思いを大切に支援が行われている。職員が育てた野菜を収穫したり、毎日の料理の下ごしらえ、恵方巻きや盆団子等の季節に応じた料理作りなど、入居者の活躍の場も用意されている。法人全体で実施している誕生会では、母体特養シェフの御馳走が振る舞われ、別途、誕生日当日にはホームの手作りケーキで祝うなど、食事を楽しむ工夫が多く見られた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、10時、3時のおやつ摂取量・水分量をチェックし、記録しています。夜間の水分補給用に居室には白湯を準備しています。月1回の体重測定も実施、増減確認し担当者会議時栄養状態についても議題にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、夕食後は歯磨き誘導行っています。夕食後は入れ歯磨きの仕上げ支援を行い、洗浄剤使用しています。状態見ながら、歯科通院の援助も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員が把握、自尊心を傷つけないよう声掛け、見守りしています。失敗等ある方には替えのパット等お渡ししています。ご利用者に合った下着・パット等の使用にて外出時も安心されています。	出来る限りトイレでの排泄を継続させたいと、時間を見計らっての声掛けを行い、安易におむつに頼らない取り組みを行っている。夜間は、枕元に職員を呼ぶブザーを置き、トイレまでの移動を見守ることで、事故防止を図っている。平均年齢89歳、最高齢92歳と高齢の人が多いが、布パンツを着用し、自分でトイレへ行くという人が半数以上を占めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量1000～1200程摂取。三度の食事にも野菜の小鉢をつけて提供。体調観ながら歩行訓練実施。現在は便秘のかたおられず生活されています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しています。湯加減等の好みを職員が把握し入浴を支援しています。湯船での過ごし方も多種多様、大きな声で唄ったり、昔話に花が咲いたり、楽しんでいる入浴を支援しています。	入居者全員が毎日入浴。順番は入居者同士の譲り合いで決まり、時間も希望に沿って支援している。入浴中に歌が出たり、おしゃべりしたりと、ゆったりと楽しむことができている。最初は入浴を嫌がっていた人も、他の入居者が入浴を楽しんでいる様子に感化され、現在、嫌がる人はいない。立位が困難な人の受け入れを想定して、機械浴も設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	10時・15時のお茶の時間の前に軽作業・グループワーク・歩行訓練等実施しています。お茶の時間にゆっくり休まれ、お話されています。体調、気分により居室で休んで頂いています。又夜間の照明は豆電球・ダウンとご利用者の希望にて調整しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬リストにより、用法・用量・目的等職員に申し送り把握できるようにし、注意事項・副作用についても注意しています。薬だし、投薬介助は別の職員がしチェックリストにて確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大家族の台所を切り盛りしてきた方には料理、看護師だった方には訓練の付き添い、先生には歌等、ご利用者が生きがい持てる場面作りを目指しています。又、新しい発見目指して職員もコミュニケーションに努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関前の駐車場に花壇ができ、気軽に草引き・花見学に出れるようになりました。季節の花見・温泉の足湯とご利用者の希望により計画を立て出かける楽しみに繋げています。	1～2名を伴っての市場への買い物や、周辺の散歩が日常的に行われている。市場では知人と出会うことも多く、入居者の楽しみとなっている。全員で季節毎の花見や公園へ出かけることも多く、母体特養のデイセンターと合同でのみかん狩りには、母体特養の心づくしの豪華な弁当を持参。みかんはジャムやゼリーにして、後日の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族のご理解を得て、小銭を手元にもたれています。新鮮市場への買い物ではおやつを購入され、皆で食べるのを楽しみにされます。使用状況は毎月のおたよりにてお知らせしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い・年賀状を手書きしご家族に出しています。電話は、本人が希望時職員が付き添いの上使用しておられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入り、台所、リビングと間仕切りのない広々とした空間が広がっています。リビングにはグループワークで制作した季節ごとの作品、テーブルには散歩の途中でつけた野の花と、季節を実感できる空間作りを目指しています。	白い壁と木の質感がペンションを思わせ、ゆったりとした雰囲気が漂っている。広々としたリビングの向こうには、ジャンプするイルカの海が広がり、丘の上の風車や、遠くに島原半島が見える絶景地。大きなガラス戸の手前には特注のウッドチェアが置かれ、上質な家具が配置されている。紫外線カットのコーティングが施されたガラス戸と、吹き抜け天井窓からは柔らかな陽光が差し込み、開放的で穏やかな空間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングは可動式の間仕切りで目的に応じた空間を提供することができます。午前中は玄関前、午後は畳の間と日光浴の場がありますので、気分に応じ楽しんでおられます。又リビングと台所にテーブルが配置しており、思い思いのグループのくつろぎの場ともなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇・お大師様・タンスと思い出のあるもの持参されています。毎朝お茶・お供えあげられ、ご主人・ご先祖様にお話される姿を見かけます。	専用面積規定を上回る広い室内に、昔懐かしい雰囲気のある筆筒や、仏壇、お大師様、恵比須様が並んだ部屋等、その人らしさを感じられる部屋となっている。自分で洗濯物を畳んで収納できる人の為に、収納ケースに分類分けのシールを貼るなど、入居者の力を活かす心遣いも見られた。	広い部屋に「寂しい」と漏らす人もおり、持ち込みの少ない部屋には、もう少し工夫があると更に良いと考える。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所間もなくは居室が分かりやすいようにドアに造花を飾り目印にしています。洗濯物干しは移動可能なものを購入、ご利用者に干していただき職員が外に移動、自立を促しながら安心して暮らされる生活の支援を目指して余す。		